



さくらゐ川

第四三号

平成一四年十月一日

熱日高彦神社社務所

TEL: 六二〇二四一 FAX: 六二四八六一

メール atuhitaka@hitaka.org

今日は嬉しい七五三詣で

七五三は、子供の成長の様子を土地の守り神さまにご報告し、ほめていただき、さらに御加護をいただく大切な神事です。見た目のきらびやかさが強調されがちですが、心を込めてこそはじめて成長のお祝いです。ご家族揃ってお参りください。

月の始めは月次祭

つきなみさい

静かなお祭 定例参拝者も

熱日高彦神社では、毎月お朔日が月次祭。毎月定例に行われるお祭を月次祭と言います。通常午前十時ごろに行いますが、参列者がたいていありませんので、他の行事との兼ね合いで動くことが多いこととなります。

年には例祭があります。例大祭である四月六日に合せて、夏季例祭も旧七月(現在八月六日)とその前日の前夜祭。しかし今日、日中の暑さを避けて前夜祭が本祭のようになってしまいました。また月々の六日を「例祭ご縁日」として、朝拝に合せてお祭しております。

お朔日を月次祭としたのは、歳旦祭に連なる考え方からと思われ、月の始めに氏子の安全と繁栄を祈ります。

ことにお朔日の参拝者があり、手が回らない境内の掃除を手伝っていかれる方もあり、その度に反省させられております。

また十五日にもお参りがあります。これも正月十五日と同じで、かつて十五日が満月であったため、この日をもって正月、或いは月の始めと見た歴史があるからです。

このように神社の何気ない祭りや参拝のし方に、古い日本人の歴史が隠されているのです。

夏祭 各位のご協力

年々賑やかに

熱日高彦神社夏季例祭は、氏子・有志青年たちの協力で、大変な賑わいを見せて、年々参拝者の数も増えてきている。今年の祭もあんどんや神楽、巫女舞(みかぐら)、それにきつても切れない存在になっている若者有志による振る舞い、その上去年から試みた花火も加わって、いよいよあついで夏祭となった。

約一ヶ月前からあんどんの製作をお願いし、一区から九区までの子供会、はぐくみ学園や川柳の会などから総数約二〇〇個ほど奉納された。電球の数も増え、設備・安全とも年々整備され、奉納行灯の美しさでは県内で類が無いほど。



祭典はさまざまな形でのご協力の篤志があつてはじめて齋行できるもの。関わっていた各位に感謝申し上げます。次第で

忠魂碑慰霊祭 ひっそりと

旧枝野村の忠魂碑が神社の西南の丘に建っています。毎年八月十五日の終戦記念日に簡単な慰霊祭を行っておりますが、近頃は軍



恩の方々が高齢化し、参列者がさびしくなっております。それでも今年、ちよつと桜井の菅野忠男さんご夫妻が参列され、神社の子どもたちと合わせて少し賑わい、往時を偲ぶことが出来ました。

北朝鮮が拉致の事実を自ら認めるに及んで、これまで、国際的にもいわれのないA級戦犯を持ち出して靖国神社や教科書問題を俎上に載せて日本をなじり、その裏でテロ行為を続けてきた実態が明らかになりました。これをやすやすと許していたのが平和日本です。

これらの実態からも、旧枝野村役場から推され、国の命令で戦場に向かい、命をかけて、国民の安全を守るために戦った勇士の御霊に対する枝野地区民の思いを、こんなところで表してみたいですね。

傷痍軍人も地区内にいらつしやいます。亡くなった勇士だけが尊いのではなく、生き証人としてももつと活用させていただき、その働に感謝したいですね。

温故 白山信仰は夫婦和合

知新 白山姫神社縁起

白山姫神社の修復工事は、佐善工務店の奉仕作業と有志・氏子のご協力によって、立派に竣工し、八月五日熱日高彦神社夏季祭に引き続き、竣工報告祭が齋行されました。

この際白山姫神社とその信仰について、僅かに触れておきたいと思ひます。

まず白山姫神社の中の本札を読んでみます。二枚あつて、本殿の物が表裏に書かれ、拜殿の物が長尺になつていて表のみ書かれています。拜殿の札は上下に長いので、上下に分けて紹介します。次のように読み取れます。

本社札 表面

白山大権現元正天皇靈龜二年加賀國石川郡仁出現此

神於斯乃所仁祠皇天和二年四月五日

白山宮 神躰伊奘諾尊 本地正観音

天台祖師園仁慈覺大師作
奥州仙 伊具 葛田郷 産神鎮座 祭之
社地境内梅津氏御知行不宮除

白山宮別當

上野宮様御未流天台宗嶋田寺慶天代

本社建立

往古之書証写之 而

本社札 裏面

正観音

白山 妙理

拜殿札 上部(裏面なし)

寛政十二庚申年

奉造立白山宮拜殿御武運長久氏子盤言

四月吉日

拜殿札 下部

大工寄進 小野弥七郎

同 甚七

施主 秀右衛門

同 市十郎

同 忠右衛門

以上です。

これをすなおに読んでみます。(小野文字さんのすぐ東隣に)白山宮が天和二年四月五日に建立されました。御祭神は伊奘諾尊で本地仏が正観音であり、島田郷の産土神として祀られていました。天台宗嶋田寺が建立し、当時も別当をしていました。仙台藩土梅津氏の知行地に建てられていました。これが当時(氏名不明)の別当が書いたものです。

この札は本殿の中に貼つてあります。年号も記されていません。遷宮か御屋根替えの時に遷されたものでしょう。

拜殿の札は棟札の体裁をとっておりますから、当日の棟札と見てよいかと思います。こ

の拜殿(今の神輿堂)は寛政十二年四月吉日に小野弥七郎、甚七が大工賃を寄進して、秀右衛門、市十郎、忠右衛門たちが施主となって建てたと書いてあります。前の札から、ここでの「武運長久」は梅津氏のこと、「氏子盤言」は島田郷のことであると思われる。そして施主として名を連ねた二人は、島田の百姓を治める役をした家柄の者であつたろうと思われれます。大工寄進をした二人は梅津氏と関わりある財産家であつたと思われれます。

安永四年に島田村から書上された風土記書出しには、敷地は御番組梅津文太郎知行地となつています。正観音像の存在は記されていません。勧進の年代も分らないとされていません。嶋田寺歴代の中に、慶天なる人物の記載もありません。そういえば本殿の板札は「往古の書を証写」したとありますから、そのまま受け取れない部分がありそうです。

加賀の白山大権現は白山媛命(菊理比咩命(くくりひめのみこと))を祭神としていて、祖霊が集まるといふ加賀の白山の信仰に仏教が早くから関わつていたため、早期の仏教である密教(天台、真言)の寺に付随した神社として祀られる例が多いです。嶋田寺はいつ廃寺になつたか不明ですが、歴代の墓は島田街道の切通の上にあります。天台宗、真言宗などの密教は当時神社の別当をよく勤めました。島田には吉田家など、法印の家が幾つかありましたから、別当を受け継いだものと思われれます。

明治新政府により神仏分離がなされ、一村一社の方針によつて、館稲荷神社と共に、明治四十三年現在の所に遷宮されました。吉田家は神職となりましたが、預かつていた毘沙門堂や上人壇が仏堂を選んだために、朝鮮に渡りましたが、終戦後廃業せざるを得ませんでした。

板札には御祭神を伊奘諾尊としていますが、白山姫神社の現在の御祭神は菊理姫神です。この神様は白山媛命または菊理比咩命(くくりひめのみこと)と申して、伊奘諾尊(いざなぎのみこと)が伊奘冉尊(いざなみのみこと)を追つて黄泉の国(あの世)にいたり、そこから逃げ帰ろうとして黄泉平坂(よもつひらさか)あの世との境で争われたとき、その間に入つて、両神の間を調和して相互の主張を聞き入れ、助言されて、伊奘尊を無事にこの世に戻された神様(『日本書紀』)であります。

この後、伊奘諾尊は天照大神、月読神、須佐之男の神などを産む大切な御仕事をされます。白山媛尊がされた一尊の調整のお仕事は、男女の和解、子孫繁栄の神としてだけでなく、あの世との境に立たれる延命長寿、来世利益の御神徳を持たれることになります。加賀の白山媛神社では御祭神を伊奘諾尊、伊奘冉尊、白山媛命の三神としています。板札に正観音を祀つたとあるのは、白山媛命が夫々の考えをよく聞分けてくれた事を観自在多聞とみて本地仏としたものかも知れませんが、

お日高さんの自然

マメの原種 オオバタンキリマメ

(写真) オオバタンキリマメ 日本野生植物 平凡社



熱日高

彦神社の

モミ林の

へりには、

オオバタ

ンキリマ

メ(つる

性のマメ

科植物)

が自生している。熟すとさやが割れて赤いイマスクのようになり、黒い豆粒が二つ目玉のようにくっつく。

別名トキリマメとも呼ばれ、角田市内では二、三カ所にしか自生しない。角田が自生の北限で貴重な植物である。むかし民間薬として痰を切るのに使われたといわれ、その名が付いた。

さて我々の生活に深いかかわりのあるマメ科の植物としては、ツルマメとヤブツルアズキがある。

ツルマメはダイズの原種で、林のへりや藪に生えている。ツルマメのさやと実は、小粒納豆を作る小粒のダイズよりもっと小さい。集めるのが大変だがこの小さい実で小粒納豆が出来るかもしれない。

一方、小豆の原種であるヤブツルアズキは、ツルマメと同じ様な環境に生えている。ツルマメは薄紫の花であるが、こちらは比較的大きい黄色の花を咲かせる。もちろん栽培されている小豆よりもさやも実も小さい。これら野生のマメもあと少しで実りの時期を迎える。今まさに自然食ブームである。ツルマメで納豆や豆腐をつくったり、ヤブツルアズキのお赤飯を味わってみるのも、我々の身の回りの自然を見直す一方法かもしれない。

(文/小島和夫氏)

「お知らせ」

宮城県神社祭事暦

宮城県神社庁で発行している、平成十五年の宮城県神社祭事暦が発行されました。表題の通り県内神社の祭りが全て分る暦であります。暦法や方角、年回りや物忌のことなど、大まかなことはこれを読めば分ります。

よく聞かれる事に、工事に関わる方角などありますが、大將軍とかあきの方など、これを見ておおよそのことを知って神社に相談すれば、すぐ解決です。

神棚の据え方もよく聞かれますが、これも書いてあります。



厄年とか日が悪いとかについても、一つの考え方の基本が分るようになっていきます。今日の時勢にそう長く忌み籠っているわけにもいきません。共通の判断が出来ればこれに越したことはありません。

もし書いてなければ聞いてください。書いてほしことは来年の暦に載せられます。

去年まで総代の方が来てくれたが、という声もありました。回っている内に手持ちが売切れてしまうこともあります。神社に早めに電話していただければ、お届け出来ます。

社頭暦

十月 一日 月次祭

六日 ご縁日

一四日 九月節句(旧九月九日)

十一月 一日 月次祭

六日 ご縁日

一五日 七五三詣

二三日 新嘗祭

十二月 一日 月次祭

六日 ご縁日

三十一日 大祓 越年祭

編集後記

拉致問題は多くの政治家やマスコミが見ぬ振りをしてきました。電力会社は事故をもみ消し、食品会社はウソの表示も平気です。せめて私たち庶民だけは、日本人としての健全な道徳心を忘れず持ちつづけたいものです。